全国保育実践交流会ニュース

2020 年 1 月 14 日発行　東北ブロック

新しい年が始まりました。お正月休み、連休も明け、各保育園とも元気な子ども達の声が響いている事と思います。新年早々、米国イランの緊張状態、桜をみる会の不正、自衛隊の中東派遣と見逃せないニュースが次々と飛び込んでいますが、今年もまた共に学び、子ども達の明るい未来へと強く歩みを止めず、皆で進んでいきましょう。

2019　秋の全国研修会・九州熊本にて

11 月 16 日(土)～17 日(日)　熊本にて“私達の社会　水俣・日本／水俣病問題を現地に学ぶ”“乳幼児期の正しい体内時計形成は生涯にわたる心身の健康を守る”というテーマで秋の全国研修会が開かれました。

＜研修会に参加して＞

水俣の現地を全国の仲間と共に 7 台のバスを連ねて訪れた事、そしてずっと運動に携わってきた北岡秀郎氏の講演、医師の立場から板井八重子氏のお話、患者会の方々の訴えと、心を揺さぶる学びとなりました。

各バスに民医連の方々や弁護士さんが乗車し、分かりやすく説明して頂き、コース設定・時間配分など九州地区の組織力には頭が下がりました。乗車してすぐ車内でのビデオ説明が始まると同時に、私は 50 年間思い出したことがなかったある言葉を思い出し、胸がドキドキしました。自分の父は八戸市の日東化学に勤めていて、夜勤などの三交代の仕事で小学校から帰ると家に居る日もあり、よく社会の話などをしてくれました。ビデオで百間排水口の映像が映し出された時、“夜になると汚れた排水を海に流す”と言っていた父の言葉がよみがえりました。日東化学は化学肥料等を製造していた会社で、全国の新産業都市の一つとなった八戸市では安定した会社でした。当時保育士をしていた母たちは給料も安定せず、東京に風船デモに行ったり市長さんに交渉しに行っていた時代だったので、結婚した時に“相手が日東に勤めていて良かったね”と言われた事があると言っていました。今回、水俣の現地へ行くまでは、どこか以前の公害病という認識が自身の中にありましたが、そうではなく、ちょうど 60 年代を生きる私達が過ごしてきた時代、社会全体の経済の構造の流れの中で起きた同源の問題なのだと気付きました。そして、ただ美しく静かな有明海を下に、山間へ進んでいく時の廃棄物をただ埋めてコンクリートで蓋をしているだけという場所を見た時は、福島の光景がありありと浮かび重なりました。そういう部分では、50 年を経ても何も変わっていないという静かな憤りが込み上げてきた道中でした。

“水俣病資料館やエコパークは「起きた事を学び、ここに生きる希望をつくる」場所です。1 人 1 人がどのような未来を作っていくか、考道して欲しいと願っています”（資料館パンフレット前文）
このような強いメッセージの下、水銀の被害が世界中にある事や環境問題についても考えれる展示もあり、次の世代への新しい歩みが始まっている事も感じられ力強く思いました。また、資料館の正面玄関を入ってすぐのところに豊かな有明の海に生きる数多くの魚や小さな生き物のシアタールームがあり、それぞれ皆違っていて可愛らしく、一生懸命エサを食べていたり動いてる姿が、何か子ども達の様に思え、いとおしく感じました。またそれは、北岡秀郎氏が講演で語った保育者である私達へのメッセージとも重なりました。水俣病と真正面に向き合い人生を生きてきた北岡氏の“人権は闘わなければ守れない”という最後の言葉。本当に重みがあり、忘れてはいけない言葉だと思います。

水俣現地見学の日は、とても晴れていて静かな美しい有明海でした。
“百間の排水口からですな、原色の赤や青色の、何か油の塊が座布団くらいの大きさになって流れてくる。そして、はだか瀬の方さね、流れてゆく。あんたもう、くしゃみの出て。”（“苦海浄土”石牟礼　道子）
この海は、そうして自らを汚されたその時からずっと長い間、水俣病患者やその家族の苦しみや悲しみを受け入れ、今、美しく目の前にあるのだなぁと感じました。

（是川保育園・中西早月）

11 月 6 日～7 日　*北海道　3 園のリズム学習が開催されました*

去る 8 月 21 日～23 日、東北・北海道園長会が小樽のかもめ保育園と札幌の菊水上町保育園を会場に開催されました。その後、かもめ保育園の園長さんより「“子ども同士の交流だけでなく、大人の学習を重ねることが子どもの発達に連がる”ということを重視し、3 園で交流を深めて行きたい。今後は北海道への出張講演やリズム実践、学習会等が可能となるような講師の派遣を考慮して頂きたい。職員の質の向上の為、より一層お力をお借りしたい」という要望があり、三役会議で話し合いがされました。

11 月 6～7 日、北海道かもめ保育園と菊水上町保育園、風の子保育園の 3 園で年長リズム（48 名）と職員のリズム学習会（約 60 名）、育児相談、絵の学習会、講演会（どの子も育つ）の内容で行なわれ、講師は大阪くるみ共同保育園元園長の宇山喜久子氏に、2 日間の過密なスケジュールの中、御指導を頂きました。東北からは岩淵が同行しました。

これを機に、北海道地域の交流と活動の方向性が見えてきた思いが致しました。

（さくらっこ保育園・岩淵）

～全国保育実践交流会　会員の皆様へ～

この度は 10 月に台風 19 号被害に遭い、皆様から沢山の義援金を頂き有難うございました。

保育所は全部屋、床上浸水(20cm)、所庭は一部えぐられた状態でした。3 日間の復旧作業を行い 10 月 16 日から開所しました。現在、所庭の改修工事が終わり、子ども達は元気に所庭を走り回っています。今後、床の改修工事なども予定しています。

これからも子ども達が安心して保育所生活が送れるように職員・保護者と力を合わせて頑張っていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

（好間保育所　所長　作山亜紀・職員一同）

東北ブロックがスタートした頃は、年長交流合宿は福島県郡山自然の家に宮城・福島の 6 園を中心に集まって行なわれていました。参加園が少しずつ増えてきたこともありますが、東日本大震災による原発事故をきっかけに郡山に集まることが出来なくなり、南東北は福島で、北東北は宮城・岩手・青森の園が花巻に集まって合宿を行なってきました。現在は加盟園が 17 園となり、3 つのブロックに分かれて活動しています。今年度、東北ブロックは、福島(67 名)、宮城・岩手(87 名)、青森・秋田(47 名)の年長児が交流をしてきました。今年、北海道でもまた新しい動きがあり、全国では長野ブロックで初めての秋の研修会が開かれます。12 月の学習会ではありませんが、“物事は（前向きに）変化していく”そんな 2020 年代の幕開けのように感じています。